A—97 近世養生思想展開下における食品食物攝取の動向（第1報）

和洋女大文家政　○松田久子　石川松太郎　筑波大坂戸高　石川尚子
三輪田学園　中込みよ子

「その1」－病人を対象に－

目的：わが国では近世にいたって養生思想が発達し一般に普及した。理由は、(1)約2世紀半にわたって平和な状態が持続したため、人間の生命を尊重する社会動向が生じたこと、(2)この間、医学・薬学等の発達が著るしかったこと、(3)こうした高度の知識・技術を一般国民の理解にとどき実践しやすい形で解説した養生書が踵を接して編集・刊行されたこと、(4)上記3点にもかかわらず、封建社会の構造的矛盾から、妊娠中絶や間引が慣習化し、また乳幼児死亡率も高く、これに対応して幕藩為政者が養生思想尊重の政策的企図をいだいたこと、などの諸点にある。ここでは(3)に指摘した諸養生書が、食品食物について、いかなる記事を掲載しているかを分析し、その史的変遷の軌跡を追究することにより、近世における食品食物攝取の動向を把握する一助とする。

方法：近世初期に編集された『和歌食物本草』はじめ、中期より後期にかけて特に普及度の高かったと思われる数種の養生書をとりあげ、基本的な養生理念について検討するとともに、食品食物にかかわる記事を抽出して内容の分析を試みた。「その1」では、眼病・吐血・吐泻・瘡・痔・黄疸・脚気・喘息など、特定の疾病におかされている人々の食品食物の攝取にかかわる記事に重点をかけて調査し、これらの記事の意義について考察した。

結果：上記養生書の病人の食品食物の攝取に関する記事をとおして、歴史学的および家政学的な観点から、いくつかの興味ある結果がえられたものと思料するので、標題の「その1」として発表する。